

選択の季節

—進路ガイダンス、300人が結集！！—



今年の1月の天候は不順で、1級寒波が襲来、居座ったかと思えばその間隙をぬって3月中旬並みの陽気が2~3日続くなど、体がついていけなくなりそうだ。小学校もインフルエンザ児童続出で軒並み学級閉鎖、という話をあちこちで耳にする。そんな中、1月21日（日）の、ここ鶴見緑地公園・花博記念ホールは、300人の元気なシニアで賑わっていた。今日はシニア自然大学校・冬の定番行事「進路ガイダンス」。11時の「開門」を待ちかねたように各研究科や地域組織、サークルなどのメンバーがどっとなだれ込み、修了目前の講座生勧誘のためのブース作りにとりかかる。テーブルに展示品を並べ、壁面には活動ぶりを伝える写真やデータ入りの模造紙を貼るなど手際よく、ガイダンスの雰囲気のみるみるうちに出来上がっていく。…12時40分、集まってくる講座生と主催者側（10数人）を残してブース関係者（ざっと100人）は一旦退出、13時の進路ガイダンスの始まりを待つ。240人の講座生の8割、約190人が参加した（“日本野鳥の会”的な数え方しかしていない）。



全体説明の冒頭、司会の新井康彦ASに紹介された濱面 誠代表は「人生100年」と云われるこの時代、長寿社会をいかに充実して生きるかが問われている。当校は新年度が設立25年度目。数ある“元気なシニア”の受け皿の中で、修了後の活動場所の選択肢がこれほど豊富に用意されている学校はほかにない。皆さんの期待にマッチするブースを探し出してほしい」と挨拶。講座部本科代表の森 一眞理事は進路の概要説明を「教育実習の中だけでは知り得なかった、こんな組織もあったのか、というような発見があるかもしれない。ブースをじっくり見、じっくり選んでほしい」と結ばれた。全体説明が終了する13時40分にはブース関係者も再集合してそれぞれの位置に着き、会場の総人口は一気に300人に膨れ上がる。いよいよガイダンスの始まりだ。

開設ブースは合計48。室内には研究科・地域組織・学校運営関係部署やCITYカレッジ、ロビーには各サークルが趣向を凝らしたブースを張る。室内ではオカリナの会が演奏する懐かしい唱歌や童謡が会場の空気を和らげる。…講座生のZさんに聞いてみた。彼女のご主人は十年以上も前に当校を修了されているとか。

Q:「意中の進路」は絞り込めましたか？

A:たくさんありすぎて目移りしてしまいますが、大体決めました。主婦業もあるので、活動場所が家から遠いところはちょっとね。最終的には家族会議（！？）で決めます。

ブースを訪れる講座生と各組織との熱心なやりとりに時間はあっという間に過ぎ、終了時刻の15時15分になってもまだ所どころに人だかりが。自然教育部門統括の金高 俊義副代表に伺った。

Q:今年のガイダンスは例年より活気があったように感じました。何か特別な意識付けをされたのですか？

A:アシスタントの皆さんの創意工夫力が高まって、教育実習にもその成果が出ていたと感じます。教育実習の体験の印象が講座生の進路決定の決め手となっているケースは多いでしょうが、実際にメンバーになってみたら意外な違和感に出逢って当惑したり、ということも現実にはあるでしょう。熟慮して、悩んで、悔いのない選択をしてほしいです。

講座生の皆さん、修了後にこんなに多彩な選択肢が用意されていたことに驚かれたかもしれませんね。十分情報を集め、ご家族や友人とも相談されて、どうぞベストの進路選択をなさってください。

（広報：文 芳川、写真 石原）

